

特定非営利活動法人わっか

# 2021 年度 年次報告書

だれもがまるごと  
受けとめられる  
社会をつくる



NPO wacca

# Our vision

## だれもが、まるごと受けとめられる社会をつくる

わっかは、だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

### 子どもを取り巻く環境について

子どもたちは思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、さらには、地域社会においても、その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

私たちは、まるごと受けとめられる場づくりをしたい、そんな思いで居場所づくり事業や出会いと学びを育む事業などを行っています。

## 事業一覧

1

### 居場所づくり事業

月ようわっか 日ようわっか 平日わっか . . . 5 ~ 8

さかっこクラブ（放課後児童クラブ） . . . 9 ~ 10

2

### 出会いと学びを育む事業

若者とのかかわり . . . 11

講演会 視察 . . . 12 ~ 14

3

### その他

わっかへのご寄付 . . . 15

## わっかの目指す姿

だれもが、まるごと受け止められる社会を目指して、  
居場所づくり活動を中心として活動しています。

日々、わっかに集う人たちとすごす、  
なんでもない日常を何より大事にしています。

そんな中で、さまざまな声を聞くことがあります。

それは、その人の生きづらさの吐露であり、  
私たちはその声に寄り添いたいと、願っています。

わっかの活動はすべて、  
そんな小さな弱い、でも確かな声をきっかけに  
立ち上げてきたものばかりです。

いま、出会うあなたへ、私たちができることをやり続ける。

それが、わっかです。

# 月ようわっか

毎週月よう日 16:00 ~ 20:00

開けた回数 来た人 ※()内の人数はご飯を食べた人の数(持ち帰りも含む)

41回 こども265人(194人) おとな57人(21人)



「月ようわっか」としてやってきた取り組みは、そろそろ一息つくタイミングだと感じている。それは、利用者の減少からも明らかだ。また、今年度の利用者の内訳も中高生が中心になっている。来ているこども達は、これまで細く長く付き合ってきた子達ばかりだ。わっかでの出来事をいくつも話せるほどの馴染みの子達が足繁く「月ようわっか」に来てくれていた。本当に嬉しい限りだ。だからこそ、人数が減ろうが、その子達の少しでも居場所になっているのなら、ちょっとでも行きたい場所になっているならという思いで今年も開け続けていた。

ただ、その子達もさらに大きくなり、それぞれの道が分かれてくる時期になっている。もう少ししたら、「月ようわっか」には誰も来なくなるかもしれない。わっかの代名詞とも言える取り組みのひとつが、ここで終わろうとしている。”コロナ”は正直大きい。でも、それと同時にボクらのスタンスも少しずつ変わってきた。その結果、今の「月ようわっか」なのだろうと思う。これまでにありがとう、そして、これからもわっかをよろしくというのが正直な気持ちだ。(文責:柳生のび)

# 日ようわっか

第2・4日曜日 10:00 ~ 15:00

開けた回数 来た人

19回 こども175人 おとな40人



昨年度は、第2のみの開催だったのを、今年度は、毎月第2、4日曜日と開催を増やしました。来る方たちも少しずつ変わりました。常連の親子が中心だったのが、そのこどもの友達たちや、これまで月よう日に来ていたこどもたちが、友達どおしで来るようになりました。

ずっと続けてきて、来る人たちも少しずつ変わってきました。もともとは乳幼児と保護者が中心でずっとここで過ごすものだったのが、こどもたちが中心になってきました。そして、ここでずっと過ごすのではなく、途中地域の公園に行ったり、どこかに行くことも増えてきました。

年度末にかけて、こどもたちが増えてきたので、今年度どうなっていくか楽しみです。

(文責：だいのすけ)

# 平日わっか

火～木よう日 13:00 ～ 17:00

金よう日 16:00 ～ 20:00

開けた回数 来た人

**221**回 こども**387**人 おとな**63**人



今年度は、平日毎日できるだけ開けるようにしました。それは、一昨年のコロナ禍で、開けられなくなった時、出会っている方たちには出来ることが出来たけれど、出会ったいない人には何もできなかったもので、こうやって開けられるときに、開けて、こどもたちとの日々を重ねたかったからです。

なかなか、普段は下校が16時くらいなので、立ち寄ることが難しいですが、学校が少し早く終わる水曜日や、学期末など、ふらっとこどもたちが立ち寄ってくれます。

こどもだけでなく、大人もときどき、ふらっと立ち寄ってくれます。

(文責：だいのすけ)

月ようわっか・日ようわっか・平日わっか (WAM 助成を活用・お茶の間創造支援事業)

報酬 (古民家)	400,000円
印刷製本費 (チラシ印刷、年次報告書)	50,392円
通信費 (ネット利用料、郵送代、携帯使用料)	151,622円
原材料費 (こども食堂)	217,097円
光熱水費 (古民家わっか・シェルターハウス)	213,518円
家賃 (古民家わっか)	390,000円
手数料 (ネット工事費、振込手数料)	47,628円
合 計	1,470,257円



# さかっこクラブ

# 放課後児童クラブ

登録人数

年間**63**人 長期**62**人 合計**125**人

スタッフ

**10**人（長期**15**人）

日数

**284**日



## さかっこクラブ（米原市からの委託料を活用）

給料手当 （正社員3名、パート職員7名、短期パート職員数名）	19,787,742円
法定福利費（正社員3名）	1,318,499円
通勤費（全職員）	703,610円
謝金（こども向け企画講師代）	220,500円
保険料（スタッフ用スポーツ保険）	29,880円
交際費（打合せ費用）	27,349円
交通費（スタッフ研修用）	73,530円
通信費（携帯利用料2台分、郵送代）	179,555円
消耗品費（原材料費、医療費、施設備品、清掃用具、 こども用玩具、プリンターインク、新型コロナウイルス感染症対策用品など）	1,441,939円
光熱水費（専用施設管理費）	972,933円
リース料	240,240円
支払手数料（振込手数料、メーリングシステム使用料）	263,833円
広告宣伝費（スタッフ求人）	27,708円
その他（エアコンクリーニング代、研修テキスト代等）	118,872円
合 計	25,406,190円

さかっこクラブは、今年も利用する児童が大幅に増えました。利用する児童数は最大で100人を  
超え、大型の児童クラブに仲間入りとなりました。それでも、私達がやることは変わりません。  
こども達がいかに楽しく、行きたくなる学童にするか、そして、保護者の方にも安心預けてもら  
うことができるのか、それを考え続ける1年でした。

また、昨年度いただいた満足度90%以上の結果も継続していけるかも大きな課題でした。ま  
ず、結果としては今年度も昨年度と同程度の満足度の評価をいただきました。人数が増えるから  
こそ、高学年への配慮をより考えたり、コロナ禍であっても様々な企画を設定して、楽しめる環  
境をつくり込んでいきました。一例としてご紹介すると、夏休みの企画では、選べる行事を企画  
しました。それぞれがやりたい企画を自分で選んで申し込める仕組みすることで、こどもの個々  
のニーズに応えられるようにしました。また、企画内容はこどもの希望に沿ったものも用意しま  
した。そうやって、少しずつですが、こども達がクラブでの生活に積極的に関わってくれる、関  
わりたくなる保育を日々考えて実行しています。(文責：柳生のび)



# 若者との関わり

## 若者との関わり（クラファン寄付を活用）

印刷製本費（若者との関わり報告書）	13,239円
交際費（若者の宿泊費用等）	46,570円
旅費交通費（若者の交通費補助）	45,940円
通信費（郵便、携帯利用料）	※別表（P8）に記載
消耗品費（衣類）	47,591円
光熱水費（シェルターハウス）	※別表（P8）に記載
家賃（シェルターハウス）	240,000円
合計	393,340円

### ① こども食堂「まあい食堂」 年間21回（若者との交流ご飯会）

わかかで出会った若者との食を通じた定期的な交流の実施。

### ② シェルターハウスの運営 継続利用者 1名

DVや生活に困難を抱えた若者や家庭を支援するためのシェルターハウスを確保。また、必要に応じた生活サポートや就職サポートも実施。

### ③ 若者の相談サポート

各事業で出会った若者の個別の相談対応や必要に応じた具体的なサポート等の実施。

相談受付数：35件（就職サポート 2件・引越サポート 1件・受験サポート 1件・生活サポート 2件（通年）・学習サポート 1件（通年）、その他 28件）のべ93件

#### — 事例紹介 —

○前年度に引き続きシェルターハウスを利用する学生のサポートを行いました。家族関係の問題から通学が危うい状況になってしまい、休学することになりました。現在、空いた時間でアルバイトを始めるようになり、活発に外に出られるようになりました。

○入試対策として特別支援級に通う中学生のお子さんの学習支援を平日の3ヶ月間ほぼ毎日行いました。志望校は倍率が高く、かなりの不安要素があったのですが、本人の頑張りで見事合格されました。

○中学を卒業後、しばらくアルバイトやわっかの手伝いをしていた若者の通学意欲が高まったので、学校探しや、体験入学の付き添い、入試の面接練習等のお手伝いをしました。1年間学校に通っていなかったのが、週2回のオンライン家庭教師を実施し、その後、見事合格されました。

○引きこもりの若者と繋がる縁があり、アルバイトに興味を持ち始めていると聞いたので、放課後児童クラブの見学に来てもらいました。「ここでなら働ける」と言ってくれたので、週2回アルバイトに来てくれています。(文責：あおきあすか)

# 第5回居場所づくりサミット

参加者 **20**人

毎年行っている、居場所づくりサミットも5回目を迎えました。今年度は、あなたのいばしょの大空さんと、ひとのまの宮田さんを迎え行いました。宮田さんは、民家を24時間365日あけ、実際に集う人との関わりをされていて、大空さんは、チャットを使い、相談を受けています。

そういった違いが、ある程度明確になったので、参加者にとっては、あらためて居場所づくりの形、自分にとってどういった形がいいのか考えるきっかけになったと感想もいただきました。

(文責：だいのすけ)

## 居場所づくりサミット（米原市協働事業を活用）

報償費（講師3名謝礼）	100,000円
委託費（チラシ作成）	20,000円
需用費（チラシ印刷）	11,851円
手数料（振り込み手数料）	880円
使用料（zoom使用料）	13,970円
合計	146,701円

# 第2回居場所づくりリーダー養成講座

参加者 11人 (米原市内 2人)

滋賀県米原市 (まいばら協働推進事業)

コロナ禍のいま『居場所づくり』をどうしていくか  
**第2回リーダー養成講座**  
 一緒に考え実践していくヒントをおみつける場になればと願っています

2月27日(日)  
 12:40-zoomスタート

佐藤 真紀 (さとう まき) Office/AN代表 / 精神科職域福祉士・社会福祉士  
 日本社会事業大学大学院修了。元滋賀県教育委員会スクール・ソーシャルワーカー。元米原市いじめ問題  
 対策専門委員。2010年より2017年まで岐阜県岐阜市において困難者を抱えた子どもたちの居場所づくり  
 を行い、2020年には岐阜市の中心で「夜の子どもの居場所」を立ち上げる。現在は園芸や読書を中心とし  
 て、子ども・若者と共に過ごしている。

13:00-13:50 佐藤真紀

塚本 岳 (むかもと かくちゃん) 愛知県刈谷市在住  
 (特) 日本習字連ひょうけい協会 地域運営委員兼海部宮 / あいち森のようちえんネットワーク代表 (特) こども  
 NPO 副理事長 / 名古屋市緑区児童館館長 / 市民活動団体リトルハウス 副代表 / 森のようちえん「こそあとの森」  
 副館長 / 名古屋短期大学 非常勤講師  
 東海地域の多くのプレーパークの立ち上げに関わり、各地でプレーパークや森のようちえんの事例をもとにした講  
 演や体験講座等を行う。「子どもには選べない場所」をモットーに、提供型でない自主的な遊び  
 場所、遊び環境を整えようと活動中である。

14:00-14:50 塚本岳

大門 俊介 (だいのしゅけい) 滋賀県立米原大学大学院政策・メディア研究科 (SFC) 修士課程修了予定  
 京都府立小学校で7年間の教員経験のち、デザイン思考ワークショップを多世代、多職種に展開する株  
 式会社 CURIO SCHOOL にファシリテーターとして勤務。並行して、修士研究として、全国にある多様な「人  
 が集まる場 (コミュニティカフェ・地域のたまり場・子どもの居場所など)」の観察を可視化するワー  
 クショップをデザインした。

15:00-16:00 ワークショップ: 大門俊介

16:00 終了

佐藤さんには、コロナ禍で子ども、若者、保護者に起きていること、  
 塚本さんには、児童館でも安心して居場所づくりをできるかを悩まされた  
 最後のワークショップで、どんな『居場所』をつくりたいのかをじっくり見つけていきます

昨年に引き続き、2回目の開催です。児童館やブレイクパークなどで居場所づくりをされている塚本さんに実際の活動の様子や大事にしていること、佐藤さんには、コロナ禍で子ども・若者に起きていること、そして、大門さんには、それぞれの参加者が居場所について考えるきっかけになるワークショップをしていただきました。

一昨年度参加してくださった方たちは、その後市民活動をはじめられました。これからも講演だけでなく、必要なサポートもしていきたいです。

(文責：だいのしゅけい)

## 居場所づくりリーダー養成講座 (米原市協働事業を活用)

報償費 (講師 3名謝礼)	150,000円
委託費 (チラシ作成)	20,000円
需用費 (チラシ印刷)	10,956円
手数料 (振り込み手数料)	1,320円
使用料 (zoom 使用料)	13,970円
合計	196,246円

# 講演・視察

回数 3回

9月：米原市民生・児童委員

学童保育について1時間程度お話ししました。

11月：岐阜より5名

もりの幼稚園などをされている方が来てくださり、わかかの活動をお伝えしました。

12月：

11月に見学に来てくださった方へ、オンラインで学童保育事業についてお話ししました

今年度は、3回の視察がありました。今回、きていただいたのは、岐阜でもりのようちえんなどをされている方たちです。もりのようちえんを卒業したこどもたちの居場所をどのように作るか、冒険遊び場や居場所などを考える中で、わかかの活動を参考にさせていただきました。

8年している中で、当初は行政や民生委員さんなどの視察が中心だったのが、だんだんと個人や市民活動団体の視察が継続的にあるようになりました。

ぼくらの活動が誰かのお役に立てるのは、とても嬉しいです。

(文責：だいのすけ)



# 情報発信（フォロワー）

こども、若者、古民家で集う人たちとのなんでもない日々を SNS で発信しています。発信を通じて、古民家にきてくれる人、活動を応援して下さる方がいます。(2022年5月10日現在) 括弧内は昨年度

facebook	Twitter	Instagram	Youtube
1069人(996人)	179人(160人)	108人(81人)	81人(65人)

## わかへのご寄付

わかへは、NPO 法人化とともに活動資金を寄付で賄うことを目指して、寄付での活動資金確保にむけて動いております。みなさまのおかげで、古民家開放にかかる事業費の約 50% を寄付で確保できるまでになりました。ただ、足りない分は補助金・助成金によって補填している状況です。引きつづき活動を応援していただく方と出会うため、古民家をあげ、そこでの日々を発信していきます。

正会員	賛助会員	マンスリーサポーター	都度寄付
16人	3人	27人	8人

総金額 801,073 円

支えてくださった企業・団体（敬称略）

<p>米原市</p> 	<p>独立行政法人 福祉医療機構</p> 	<p>タノシニア合同会社</p> 
<p>社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会</p> 	<p>社会福祉法人 米原市社会福祉協議会</p> 	<p>紙eco</p> 
<p>マコトヤ</p> 	<p>いっばまエクラブ</p>	<p>キュービーみらいたまご財団</p> 



団体名	特定非営利活動法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059（代表）
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	<a href="https://npo-wacca.org">https://npo-wacca.org</a>
Facebook	 こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	 アカウント名 @NpoWacca
Youtube	 アカウント名 振角大祐
Instagram	 アカウント名 @wacca_asunoki